

三方五湖に生き物と人の賑わいを再び



手作業でヨシの根を掘り起こし、復田した「かや田」

かつて三方湖に注ぐ鱒川には、名前の由来となったハスという魚が生息し、産卵期には遡上し水面が盛り上がる光景が見られました。しかし、近年ハスは確認されていないため、再び戻ってこられるような環境を取り戻そうと、平成17年に協議会を設立。当初20数名だった会員も現在は70名を越えています。

現在の主な活動は、若狭の原風景である「かや田」の保全再生。長年耕作放棄されていた湿田のヨシを掘り起こし、古代米を栽培して、多くの生き物呼び戻しています。また、未来の担い手である子どもたちによる「キッズハスプロ」も発足させ、シラウオ獲り

ハスプロジェクト推進協議会（若狭町）
近年、多くの生き物が姿を消している三方五湖。湖にかつての生き物と人の賑わいを取り戻し、子どもたちを豊かな自然環境の中で育てたいと結成されたのが、「ハスプロジェクト推進協議会」です。

などを通じて湖の恵みと文化を伝えています。他にも田んぼで魚の卵をふ化させたり、水田魚道の設置、ブラックバスの駆除などの取組みを他の地元団体とも協力して進めています。会長の天下恭弘さんは「今後も子どもたちと一緒に湖の自然を取り戻したい」と話しています。



子どもたちも参加して古代米の収穫作業